

『エレファント・マン』で80年代最高の天才監督と謳われたデビッド・リンチ、衝撃の処女作!

イレイザーヘッド



『エレファント・マン』のルーツなのか!?

● The Production Staff
 Written, Produced & Directed by DAVID LYNCH
 Camera and Lighting FREDERICK ELMES HERBERT CARDWELL
 Location Sound Re-recording ALAN R. SPLET
 Assistant to the Director CATHERINE COULSON
 Production Manager DOREEN SMALL
 "Lady In The Radiator" Song PETER IVERS
 Composed and Sung by
 Production Design and Special Effects DAVID LYNCH
 Special Effects Photography FREDERICK ELMES
 Assistant Camera CATHERINE COULSON
 Black & White Processing by GUFFANTI LABORATORY
 Produced With the co-operation of the American Film Institute Center for Advanced Film Studies

ERASERHEAD

● The Players
 JOHN NANCE
 CHARLOTTE STEWART
 ALLEN JOSEPH
 JEANNE BATES
 JUDITH ANNA ROBERTS
 LAUREL NEAR
 V. PHIPPS-WILSON

● スタッフ
 製作・監督・脚本・撮影 デビッド・リンチ
 美術・特撮・編集 フレドリック・エルムズ
 撮影 ハーバード・カーウエル
 照明 アラン・R・スプレット
 撮影音響・再録 ジャック・フィスク
 美術監督

● キャスト
 ジョン・ナンス
 シヤーロット・ステュワート
 アレン・ジョセフ
 ジーン・ベイツ
 ジュディス・アンナ・ロバーツ
 ローレル・ニア
 V・フィップス・ウィルソン

配給・東映株式会社

80年代最高の天才監督 デビッド・リンチの原点!

「エレファント・マン」で、日本中に大いなる興奮と感動の嵐をまきおこした天才監督デビッド・リンチが、その類いまれなる才能を十二分に発揮した傑作こそが、この「レイザーヘッド」だ。「レイザーヘッド」製作当時、デビッド・リンチ監督は、全く無名の新人であったが、企画から完成に至るまで、5年の歳月が、かけられ、製作・監督・脚本・撮影・美術・編集・特撮と、すべての分野を手がけた。

全米マスコミが絶賛! 3年間ロングラン上映。

上映は、アンダーグラウンドな名画座で週に1度、深夜にのみ上映されたが、題材のユニークさ、映画としての完成度の高さに、全米のマスコミは、こぞって絶賛し、現在に至るまで、3年間のロングラン上映となった。こうして、デビッド・リンチ監督は、いちやく脚光を浴びることになった。「エレファント・マン」の監督に彼が起用されたのも、「レイザーヘッド」を、「エレファント・マン」の蔭のプロデューサー、メル・ブルックス監督が見たからである。

奔放なイメージの洪水!

「レイザーヘッド」とは、何か!?

「レイザーヘッド」とは、直訳すれば「消しゴムの頭」のこと。主人公の青年ヘンリーのモジャモジャ頭のことをさしている。映画は、フィラデルフィアの工業地帯を背景に、ヘンリーの周囲にうごめく奇怪な日常風景を、ある時はシューレルアリズム風に、ある時は、グロテスクな悪夢のように、ある時は、ブラック・ユーモアの限りを尽

くして、描きつくす。ストーリーの流れというよりは、次から次へと湧き出るデビッド・リンチの奔放なイメージが、映像を構成し、90分間たつぷりと、彼の天才性が証明されてゆく。

「エレファント・マン」に共通する、 彼らこそ神なのか!?

「レイザーヘッド」では、畸型児が、大きな役割を占めているが、デビッド・リンチ監督は、「エレファント・マン」と同様に、人間の畸型性に深い関心を寄せ、この「レイザーヘッド」も、フリークス(畸型人間)の存在を核にしている。畸型の中にこそ、真の美しさが存在し、フリークスこそ神なのだ、という監督の主張が、この「レイザーヘッド」にも、燦然と輝いている。

驚異的な映像美

映画の常識を超えた、その秘密とは?

精緻を極めた映像美の秘密は、1日にワン・カット撮影どころではなく、フィルムひとコマしか撮影できなかったという粘りにある。シュールな音響デザイン作成には、6カ月以上の時間が、かけられた。驚異的な映像に、あなたは、壮絶な美を見るか、それとも、悪夢の光景を見るか。これは、世紀末に投げかけられた感性のリトマス試験紙だ。この映画を、どう受けとめるかによって、あなたの感性も、また試される……。

全米、ジャーナリストを

騒然とさせた「レイザーヘッド」

ジャーナリストたちは、この映画について、こぞって筆を走らせた。果して彼らの受けた衝撃と、はどんなものだったのか。

『映画の救世主が現われた!』——SFイクザミナー(ヘウオーター・V・マディーゴ)

『素晴らしい映像美と鋭い直感力を持った新しい監督の登場だ』——ニューズ・ウィーク(ヘジャック・クローレル)

『この作品には、一度見たら忘れられない奇妙で不思議な雰囲気漂っている』——オピニオンズ(ジャン・クロード)

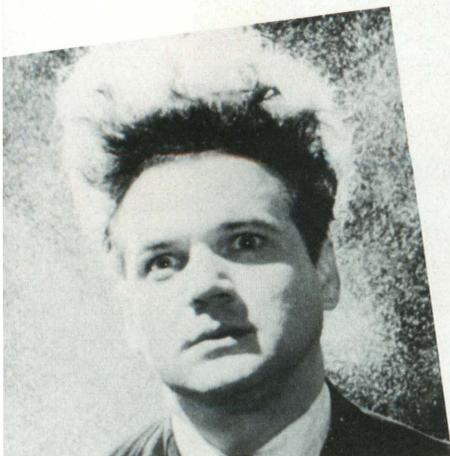
『これまでハリウッドは、いかに無内容で儲けにまらない映画ばかり作ってきたことか。「レイザーヘッド」は、ハリウッドを180度転換させる方向を示してくれている』——ハーベスト・インペンデント(デビッド・コルバーン)

『デビッド・リンチ監督は、この作品で夢と悪夢を接近させ、非現実的な世界を作り出し、見ている観客を恐怖の渦の中へ投げ込んでいく。この傑作は、明らかに黙示を意味している』——ニューズ・ウィーク(ヘステイブ・ン・サバン)

『新しい試みと伝統的な手法が、シューレルアリズムの絵画と映画が、そしてユーモアと悲劇が、混然一体となった傑作!』——UCLAブリュン(マイケル・オーバック)

『「エレファント・マン」で一躍脚光を浴びた、80年代最高の天才監督デビッド・リンチの、長篇処女作「レイザーヘッド」は、「エレファント・マン」を、あなたも続編のように思わせてしまう符号がありすぎるのだ。』

彼の天才性は、この作品ですでに表現されていた——アメリカシネマレポーター(ヘ中子真治)



ERASERHEAD

9月中旬ロードショー

特別鑑賞券発売中 / 一般 1,200円 (当日1500円の処) / 学生 1,100円 (当日1300円の処)

コマ劇場真向い

新宿東急 (200) 1981

■上映時間 連日 11:40 1:30 3:20 5:10 7:00